

変わるを変える

埼玉県グラビア協同組合
副理事長 佐伯 陽子



2025 年夏、日々猛暑を迎え、地球環境の変化に人々は翻弄される毎日です。地球環境の変化は世界中で年々激化しています。局所的な雷雨による洪水、乾燥による山火事など環境変化による災害も深刻な問題となっています。

「地球温暖化」の中で、私たちが最も身近に感じているのが猛暑です。日本より北に位置する欧州フランスでも5年ぶりの熱波警報が発令され、最高気温は 40℃ を超え人命に関わる暑さにより、学校が休校になるなど、子ども達の生活にも影響を及ぼしているようです。花の都パリでは、これまでの気候や景観・法整備によりエアコンの設置が日常化しておらず、本当に大変な夏を迎えていることと察します。

日本でも各地で、観測史上、最も早く最高気温更新のニュースが連日のように報じられています。この春から大変な問題となった「令和の米騒動」、たくさんの要因の1つには気候変動による不作も含まれています。米の価格が1年で2倍にもなるといふ、米を主食としている日本において、これまでの常識では思いもよらない事態となってしまいました。食べ盛り子ども達を抱える家庭のお母さん達の心を日々悩ませていることでしょう。

この令和の米騒動…、気候変動はたくさんある要因の中の1つにすぎず、これまでの日本国内の政策、供給体制、需要状況などが人々の気づかぬうちに刻々と変化していた結果のようです。

少子化により日本の人口は年々減少し、30 年後の 2055 年頃には人口が1億人を下回るくらいにまで減少すると予想されています。少子高齢化により農業従事者も年々減少の一途です。また、民間企業なども効率化のため、在庫を減らし調整をしているようです。まだまだ要因となる事項はたくさんあると思いますが、いずれにしても環境や状況の変化への対応が後手に回ってしまった結果なのではないでしょうか。

この問題は、製造業でも他人事とは思えず、環境、働き手、需要の変化、在庫や価格などの多くの共通点を有しています。だからこそ、これからは変化を敏感に受け止め対応しなければと思う日々です。

先日旅行したカナダでは外国からの移民を柔軟に受け入れ、近年急激に人口増加しているようです。その結果、国民の約 25%は移民となり、4人に1人は外国からの移民という人口構成になっているとのことです。そのため、これからの移民の受け入れ計画を抑止する方針が発表されています。日本でも、今後このような課題を検討しなければならない日が来るのか？ はたまた、なにか素晴らしい秘策のもと人口増加に転ずることができるのか？ 今まさに正念場を迎えているのだと思います。

余禄ですが、カナダという国はそのような問題を抱えながらも、大自然の恵みに囲まれ豊かで治安も良く、人々のリサイクルやエコロジーへの意識も高く、たいへん素晴らしい地でありました。地球環境の変化の原因が、これまでの人々の快適さや豊かさの追求にあるのだとすれば、これからは不便や節度などの変化も受容し、新たな環境の変化を作り出す努力をしなければ、環境という形のない宝物を後世に贈ることはできないのではないのでしょうか。



写真上段左：関西グラビア協同組合青年部総会、同右：九州グラビア協同組合総会、写真下段：関東グラビア協同組合青年総会の様子。詳細は本文 6～12 頁を参照

CONTENTS

巻頭言 変わるを変える ①

埼玉県グラビア協同組合 副理事長 佐伯陽子

全グラ

登録書手交式・発足式へ田口会長が出席

(一社) 工業製品製造技能人材機構 ④

「第 2 回技術セミナー」開催、全グラの特定技能の取り組みを披露

(一社) 全国スリッター協会 ⑮

組合員・単組の近況

九州グラビア協同組合：第 56 回通常総会を開催 ⑥

関東グラビア協同組合青年部：2025 年第 26 回通常総会報告 ⑩

報告者：DIC グラフィックス(株) 森下拓哉

関西グラビア協同組合青年部：第 27 期通常総会開催報告 ⑫

関東グラビア協同組合：定例理事会を開催 ⑯

業界 information ⑬

プラスチック資源循環「家庭用化粧品容器に係る設計認定の基準」など公表

酒は永遠の友 vol.7 田口 薫 ⑳

Data Watch 2025年4月データ 28

紙・プラスチック・ゴム製品統計月報に見る包装印刷 2025年5月 ... 34

GP工場認定制度無料説明会のご案内 38

GP認定制度申請についてのお願い 40

Information

三洋グラビア、原 卓実氏が社長就任 5

第28回バリア材料研究会、10月17日に「サステナブルな社会実現に向けた動脈・
静脈系各社の取り組み」を開催 15

JPI、9月17日に「2025グッドパッケージングフォーラム」を開催 17

GP工場交流会開催、中小企業の脱炭素対策支援補助事業は9月末締切 39

GPJAPANは全国グラビア協同組合連合会が発行する機関誌です。年間購読料は送料込みで15,000円＋税です。

購読および広告出稿を希望される方は、
全国グラビア協同組合連合会まで。
e-mail : zenkoku-grv@jmpi.or.jp



発行：2025年8月10日
 発行人：田口 薫（全国グラビア協同組合連合会会長）
 発行所：全国グラビア協同組合連合会
 〒130-0002 東京都墨田区業平1-21-9
 あさひ墨田ビル
 TEL.03-3623-4046、FAX.03-3622-1814
 編集スタッフ：袖山高明（全国グラビア協同組合連合会専務理事）
 下田幸二（同事務局顧問）、渡邊富美子（同事務局）、
 酒井由香（同）
 編集協力：（株）加工技術研究会
 印刷：（株）DI Palette

© 全国グラビア協同組合連合会 2025

落丁・乱丁はお取り替えます。GPJAPANの無断複写・複製・転写・転機は、著作権法で認められているケースを除き、禁止されています。また、磁気・光磁気媒体等への記録することは禁止します。

(一社) 工業製品製造技能人材機構

登録書手交式・発足式へ 田口会長が出席

全国グラビア協同組合連合会が正会員として入会した(一社)工業製品製造技能人材機構(略称 JAIM)が、経済産業省告示に基づき、特定技能外国人受入事業実施法人として経済産業大臣の登録を受けたことから、2025年6月30日(月)午前11時より、登録書手交式および JAIM 発足式が経済産業省本館地下2階講堂にて開催され、全グラからは田口 薫会長が出席した。

当日は、武藤容治経済産業大臣や伊吹英明製造産業局長、製造産業局幹部、中小企業庁、出入国在留管理庁、厚生労働省をはじめ、JAIM の日覺昭廣会長(東レ㈱代表取締役会長、日本繊維産業連盟会長)、豊島竹男理事長(三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング㈱政策研究事業本部東京本部副本部長/主席研究員)、理事および正会員団体会長らが出席した。JAIM は 2025 年 6 月 25 日(水)に特定技能外国人の適正かつ円滑な受入れ推進を担う「特定技能外国人受入事業実施法人」として登録されたことを受け、武藤容治経済産業大臣より登録書が手交された。これにより、今後は工業製品製造業分野のすべての特定技能外国人受入事業所が JAIM に加入することとなった。



左から、武藤容治経済産業大臣、日覺昭廣会長、豊島竹男理事長

続いて開催された発足式では、日本の製造業における特定技能制度の重要性や、制度運営を担う法人としての決意とともに、生産性向上や国内人材確保のための取り組みとして、全事業者・正会員が連携して賃上げを推進することなどが共有された。



挨拶をする武藤経済産業大臣



コメントを述べる日本印刷産業連合会の
瀬田章弘副会長



会場の様子

Information

三洋グラビア、原 卓実氏が社長就任

軟包装コンバーターの三洋グラビア(株)は、2025年7月20日付で代表取締役社長に原卓実氏が就任したことを発表した。これに伴

い、前社長の原 敬明氏は代表取締役会長に就任した。

組合員・単組の近況

九州グラビア協同組合

第 56 回通常総会を開催

九州グラビア協同組合（母里圭太郎理事長、(株)平野屋物産）は、2025 年 6 月 6 日（金）午後 5 時から、大分県のグランドメルキュール別府湾リゾート＆スパにおいて、第 56 回通常総会を開催しました。



母里圭太郎理事長

総会では、第 1 号議案から第 5 号議案まで審議が行われ、外国人材の雇用・就労に関する取組状況について質疑応答が交わされました。また、新規加入のイケダ(株)の池田社長、木村所長よりご挨拶がありました。

総会終了後、懇親会（乾杯：東京計器(株) 前川部長、中締め：(株)オリエント総業 大島部長）、二次会へと進みました。紙コップのセルフドリンク方式にカラオケ 1 台の簡素な二次会でしたが大変活発に盛り上がり、早朝からの親睦ゴルフ（優勝：九州大日精化工業(株) 西川課長）から別府の（温泉が）熱い夜まで充実した一日でした。



新たに加入したイケダ(株)の池田社長（左）と木村所長

第 56 回通常総会議案

第 1 号議案 令和 6 年度事業報告、財産目録、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案承認の件

第 2 号議案 令和 7 年度事業計画、収支予算案の承認および令和 7 年度賦課金徴収方法決定の件

第 3 号議案 取引金融機関ならびに本年度借入金最高限度額決定の件

第 4 号議案 本年度一組合員に対する貸付最高限度額決定の件

第 5 号議案 その他

<事業報告>

【概況】

九州の景気 DI は、44.8 と 4 カ月連続で悪化。企業からは「原油価格の高止まり、人件費の高騰、物価高による様々な費用負担増、人材不足」などの声が聞かれる。DI50 台は、



司会進行は川嶋部長（株平野屋物産）



質疑に答える中村副理事長
（株三裕商会、左）

業界別では『金融』『サービス』の2業界、県別では「沖縄」のみとなった。インバウンド需要は引き続き期待されるが、原燃料高に加え、防衛的賃上げを含む人件費負担増などがあるなか、価格転嫁も十分に進んでいないこともあり、一進一退ながら緩やかに下落傾向を辿るものとみられる。

TDB 景気動向調査 2025 年 04 月（九州ブロック）

2024 年 6 月、九州グラビア協同組合が主催となってオリエンタルホテル博多にて全国グラビア協同組合連合会の第 54 回通常総会を行いました。コロナ禍で、地方での開催は 2019 年の石川県以来 5 年振りとあって、総会には 83 名、その後の懇親会には 93 名もの参加がありました。総会翌日の観光・ゴルフまで九州グラビア協同組合・同青年部の組合員から賛助会員の皆様まで一丸となって、無事にやり遂げることができました。

総会の準備や情報交換会を通して組合員の意思疎通を図り業界の問題意識を共有化するように努めてまいりました。

<事業計画>

【概況】

2025 年 4 月「人手不足」倒産 最多の 36 件 人材の流動化が進み、「求人難」「従業員退職」が急増

2025 年 4 月の「人手不足」が一因の倒産は、36 件（前年同月比 44.0%増）で、4 月としては 2013 年以降では過去最多を更新した。内訳は、「従業員退職」14 件（同 100.0%増）、「求人難」10 件（同 66.6%増）など、賃上げが求められるなか人材の流動化が進み、従業員の採用や退職阻止に必要な賃上げが難しい小・零細企業が追い詰められている。

「人手不足」関連倒産の資本金別では、1 千万円未満が 23 件（構成比 63.8%）。形態別では、破産が 32 件（同 88.8%）と大半を占めた。

原材料や資材、エネルギー価格上昇に加え、借入金利も引き上げられ、資金繰りが厳しい企業ほど賃上げが重くのしかかっている。従業員の不足は受注機会の消失を招き、業績



回復が遅れた企業に大きな痛手となっている。

大手と中小企業の賃金格差が拡大し、賃上げをできない企業ほど人手不足がさらに進む悪循環に陥っており、人手不足を解消できない企業が倒産を押し上げる構図ができつつある。

TSR データインサイト 2025/05/07

人手不足の問題、さらに価格転嫁の問題等の経営課題が山積する中、前向きに進んで行く九

州グラビア協同組合に関わる皆様と共に、業界全体を盛り上げていくために知恵を絞っていききたいと思います。そのために組合が活発な意見交換の場となるように交流を深めていきます。

<基本方針>

具体的な事業計画

- (1) 環境セミナーの開催
- (2) 環境関連諸法規集の改定
- (3) 他業界、行政、環境関連との連携強化
- (4) 中小企業経営革新支援法と補助金制度の有効活用促進
- (5) グリーンプリンティング認定制度の取得計画
- (6) 会員・賛助会員の増強
- (7) 青年部の育成と拡大
- (8) 外国人実習生制度認定を受け、技能評価試験の実施体制の確立と実施
- (9) 事業継続対策の周知活動
- (10) 西日本高速道路株式会社の大口・多頻度割引事業
- (11) 九州包装人賀詞交歓会
軟包装部会の協議に従って事業を行います。
- (12) 資金貸付業
定款の定めるところにより資金貸付業を営みます。
- (13) 福利厚生事業
先例に基づいた<吉・凶・福>の慶弔を行います。



懇親会 snapshot



乾杯の音頭は東京計器(株)の前川部長



中締めは(株)オリエント総業の大島部長



組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合青年部

2025 年第 26 回通常総会報告

報告者：DIC グラフィックス(株) 森下拓哉

2025 年 6 月 6 日 (金)、関東グラビア協同組合青年部 (原 卓実部長、三洋グラビア(株)) は、午後 5 時頃より、東京都中央区の THE GRAND 47 (GINZA SIX 13 階) にて、2025 年通常総会を開催しました。

石澤幹事 (信和産業(株)) の司会のもと、原部長のご挨拶により通常総会は開始されました。当通常総会は組合員数 53 名中 32 名の出席により有効成立し、以下の審議を実施、満場一致により承認されました。

- ・令和 6 年度の事業報告及び収支報告
- ・役員改選 (役員に変更はなく、2 期目を迎えます)
- ・令和 7 年度の事業計画及び収支予算案
- ・前回通常総会から今回通常総会期間中の会員名簿の変更

第 26 回通常総会に至るまでの活動内容については、軟包装業界の将来を見据え「どういった印刷方式が今後の選択肢になり得るか」をテーマに取り組んで参りました。2024 年の秋季研修会では(株) SCREEN GP ジャパン様、富士機械工業(株)様にご協力いただき、EB オフセット印刷およびグラビア印刷の特徴やメリットに関する講演を行っていただき



ました。25年の春季研修会では(株)ミヤコシ様（秋田県）に訪問し、フレキソ印刷機およびEB オフセット印刷機の見学と実演を行っていただきました。参加者の皆様にはグラビア印刷との比較により、それぞれの印刷方式における優位性や相違点を実感いただけたと考えております。次の1年間は一貫した活動内容のもと、会員の皆様が将来の印刷方式を考える契機となるような取り組み行っていきたいと考えております。

通常総会後は懇親会を開催し、会員の皆様による親睦を深めました。ビンゴ大会の催しも行い、懇親会は盛況のうちに終了いたしました。

原部長のもと、次の1年間も皆様のお役に立てるよう幹事一同活動を行って参ります。引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

懇親会 snapshot



組合員・単組の近況

関西グラビア協同組合青年部

第 27 期通常総会開催報告

関西グラビア協同組合青年部(森脇拓也部長、森脇鉄工株)は、2025年6月27日(金)午後6時から、道頓堀ホテル「王鳳の間」(大阪府大阪市中央区道頓堀2-3-25)において24名参加のもと、第27期通常総会を開催しました。



森脇拓也部長

総会は、事務局の司会によって進行し、開催に際し森脇青年部部長が、多数の会員に出席いただいたことへの謝意とともに、「私が青年部部長に就任して、早いもので丸2年が経過しました。本日の総会議案では役員改選が予定されておりますが、私自身、この2年間を無事に務め上げることができ、次の方々へ何とかバトンが渡せることに安堵しています。先月開催された親組合の総会におきましても、役員改選が行われ、高桑新理事長を中心として新体制が発足しました。青年部としても親組合と連携しながら、関西地域、さらにはグラビア業界全体のさらなる発展に貢献していければと願っています。その一環として、9月開催の第4回青年部全国大会には、全国から82名の方々がご参加される予定です。つきましては、総会後の組織交流委員会にて皆様のご協力を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます」と開会挨拶をしました。

続いて司会より本日の通常総会は定足数を満たした旨が告げられ、森脇青年部部長が議長に選任され議案審議に入り、第1号議案から第4号議案が賛成多数で可決され、すべての審議を終了しました。

決議事項

第1号議案 令和6年度 事業報告及び収支決算に関する件

第2号議案 令和7年度 事業計画案及び収支予算案の承認の件

第3号議案 青年部規約一部変更の件

第4号議案 任期満了に伴う役員改選の件

総会後は委員会を開催し、教育研修委員会と組織交流委員会に分かれ期中の青年部行事(青年部全国大会、年末情報交換会、研修会)について意見交換を行いました。

その後、引き続き同会場にて懇親会を開催しました。大伸化学株井口部員の司会進行に



堀川 孟新部長

よりスタートし、総会において新たに部長に就任した堀川 孟 青年部部長（日新シール工業㈱）から「以前より青年部を力強く牽引してくださり、本日をもって青年部をご卒業され親組合の役員へのご就任された田中さん、木田さん、保田さんには、これまでのご尽力に心より感謝申し上げます。我々の業界は、技術革新や人手不足、中東情勢など、挙げればきりがなほど多くの課題を抱えています。だからこそ、我々若い世代同士で情報共有し、力を結集して業界の地位を高めていくことが、今まさに求められているのではないかと感じています。その第一歩として、9月には関西にて第4回青年部全国大会が開催されます。関西らしさ、温かさ、勢い、そして面白さを全面に打ち出した大会となるよう、皆様のご協力を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。私自身、部長としてどのように運営していけば良いのか模索中ではありますが、皆様の力をお借りしながら、精一杯努めてまいります。任期2年間どうぞ宜しくお願い申し上げます」と挨拶しました。



米谷郁彦理事

その後、乾杯の音頭では6月に社長に就任された米谷郁彦理事（芳生グラビア印刷㈱）から一言、「6月より当社の新体制がスタートし、私が代表取締役社長に就任いたしました。新しい立場のもと、組合や業界に対して、30歳という若輩ではありますが、少しでも貢献できるよう、日々精進したいと思っています。青年部におきまして、新たに堀川さんが部長に就任され、まさに新たな門出を迎えることとなりました。心機一転、全員一丸となって力を合わせ、これまで青年部を支えて下さった皆様の意志をしっかりと受け継ぎ、より良い青年部の運営を目指して取り組んでまいりたいと思います。また、先ほどもお話がありました通り、今年度は関西にて青年部全国大会が開催されます。課題が多く、大変なこともありますが、む



左から、担当者交代の挨拶をする三島 亮氏（エバーコート㈱）と石田 誠氏（淀川加工印刷㈱）

しろそれらを前向きに捉え、皆様とともに楽しみながら取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます」 と皆に伝え乾杯の発声をし、賑やかに宴会が開催され、名刺交換や情報交換、歓談の輪が繰り広げられました。

途中、新加入者および青年部担当者の交代に伴い、新旧担当者それぞれからご挨拶いただきました。また、本総会をもって青年部をご卒業される田中規貴さん（淀川加工印刷㈱）、木田守彦さん（昭和グラビア印刷㈱）、保田 久さん（ニッコーグラビア印刷㈱）からは、温かい激励のお言葉を賜りました。

そして最後には、吉田青年部副部長による中締め挨拶と、関西グラビアの名物である万歳三唱をもって、午後8時40分にすべて滞りなく終了しました。



吉田青年部副部長



田中規貴氏



木田守彦氏



懇親会 snapshot



i Information

第 28 回バリア材料研究会、10 月 17 日に「サステナブルな社会実現に向けた動脈・静脈系各社の取り組み」を開催

日本包装学会バリア材料研究会は、2025 年 10 月 17 日（金）午後 1 時から午後 5 時 15 分まで、「サステナブルな社会実現に向けた動脈・静脈系各社の取り組み」をテーマに、(株)クラレ東京本社内と Zoom によるハイブリッドで講演会を開催する。参加費は講演会 5000 円（現地参加とオンライン参加は同額）、懇親会 6000 円。プログラムは以下の通り。

13：00～13：10

開会挨拶

13：10～14：05

食肉とサステナビリティ・ヒト×動物×環境＝ワンヘルス -

日本医科大学

日本獣医生命科学大学 江草 愛氏

14：05～15：00

キューピーグループのサステナビリティの考え方と取り組み

キューピー(株) 浜北 剛氏

15：15～16：10

『コスト』と『環境』を両立させる新しい視点 -包装プロセスを見直し、包材コストを抑える- シンテゴンテクノロジー(株) 岡本龍彦氏

16：10～17：05

欧州・日本のサーキュラーエコノミー動向と連携事例

ヴェオリア・ジャパン(株) 宮川英樹氏

申込みは以下より受付中。

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_O34cNwssTTe8VMZqsn5GRA

組合員・単組の近況

関東グラビア協同組合

定例理事会を開催

関東グラビア協同組合（吉原宗彦理事長、東京加工紙㈱）は、2025年7月10日（木）午後3時～5時まで、15名の理事・監事・顧問の出席の下、組合事務所とZoomにて定例理事会を開催した。司会進行は下田幸二専務理事が、議長は吉原理事長が務めた。

下田専務理事からは、6月13日（金）に開催した全国グラビア協同組合連合会総会と役員変更について報告があった。また、関東グラビア協同組合への加入を希望する4社について説明を行い、出席理事らの承認を得て加入することとなった。

山下雅稔理事からはGP環境大賞・GPマーク普及大賞・GP資機材大賞の表彰実施要領改訂について説明があった。また、2025年10月15日（水）にはGP環境大賞等表彰式が開催されるとの告知があった。

特定技能関連では、6月30日（月）に開催された工業製品製造技能人材機構（JAIM）発足式に出席した田口 薫最高顧問が、武藤容治経済産業大臣および伊吹製造産業局長からのコメントを報告した。

袖山高明特定技能制度担当顧問からは、「印刷技能人材機構」「工業製品製造技能人材機構」、ラミネート・スリット・製袋の現状について報告があった。吉原理事長からも全グラとスリット・製袋等とは今後も連携し、特定技能制度活用に向け、推進を行っていくことで概ね了解を得ているとのコメントがあった。また、大手物流会社での特定技能活用事例を紹介、

出席理事・監事・顧問	事務所
	吉原宗彦理事長（東京加工紙㈱）
	安永研二副理事長（東包印刷㈱）
	川田雄治副理事長（トーヨー加工㈱）
	村野 剛理事（信和産業㈱）
	田口 薫最高顧問（大日本パッケージ㈱）
	山下雅稔理事（㈱巧芸社）
	千田 敦理事（㈱東京ポリエチレン印刷社）
	小林直人理事（八潮化学㈱）
	諸石武士理事（日本パッケージング㈱）
	柴田里香理事（弁護士）
	下田幸二専務理事
	袖山高明顧問
	松本 太顧問
	WEB
	佐藤裕芳監事（㈱千代田グラビヤ）
	岸本一郎監事（㈱カナオカ）

外国人雇用などについて理事らが意見交換を行った。

その他、安永研二副理事長より、「7月からの食料品値上げ」「電子マニフェスト」「下請法・下請振興法改正法」の概要について報告、下田専務理事より日印産連表彰候補者や日印産連常設員会・部会・WG・派遣委員、東京都中小企業団体中央会 70 周年記念、東京都知事感謝状、会長表彰推薦などについても報告があった。



Information

JPI、9月17日に「2025 グッドパッケージングフォーラム」を開催

日本包装技術協会（JPI）は、2025 年 9 月 17 日（水）午前 1 時 30 分～3 時 20 分まで、「2025 グッドパッケージングフォーラム」を開催する。参加費は、JPI 法人・個人会員無料、一般 11000 円（税込）。定員は 300 名。申し込みは JPI ホームページ (<https://www.jpi.or.jp/>) より。プログラムは次の通り。

13：30～14：00

「イプサ ME」環境負荷低減と情緒的価値の両立
(株)資生堂 小橋佳彦氏

14：10～14：40

易剥離接着剤を活用したリサイクル性を向上させたつめかえパウチの開発

ライオン(株) 花田真一氏

14：50～15：20

海外向け自動車部品インジェクター集合包装改善
スズキ(株) 小田切洸貴氏

全国スリッター協会

「第2回技術セミナー」開催 全グラの特定技能の取り組みを披露

全国各地のスリット加工業者が集い、スリット業界の地位向上に向け、同業者同士の情報交換や横のつながりを広げることを目的に、2024年秋に設立された「一般社団法人全国スリッター協会」が、2025年7月4日（金）に東京・エッサム神田ホール本社ビルにて同協会主催の「第2回技術セミナー」を開催し、スリッターメーカーやスリット加工業者、関連企業など39社60名が参加した。セミナーでは、全国グラビア協同組合連合会の田口 薫会長と袖山高明特定技能制度担当顧問も登壇し、特定技能制度の今について講演を行った。



岩井氏

全国スリッター協会の発起人で代表理事の岩井 潤代表理事（㈱IS スリッター）は冒頭、「廃業した同業者の見積もりが非常に安価だったという話も聞く。これで事業を継続していくのは厳しい。技術とこだわりをもって取り組んでいる我々の仕事の価値をもっと上げていかなくてはならない。特にこの業界は、仕事量が多い時期に基準を合わせるのではなく、仕事量が少ない時でも事業を継続できる価格でなければ成り立たない。今後は資材の共同購入なども考えながら、ここで最新技術の学びとつながりを得て、皆さんの力を借りながら共に助け合える業界にしていきたい」と挨拶した。

スリッターナイフの技術情報

はじめに、㈱アマタ製作所の網田 恵代表取締役と東洋刃物㈱営業部部長代理 東京営業所の高橋政義所長が登壇。

東洋刃物は1925年創立の刃物メーカーで、工業用機械刃物や部品の製造・販売を手がけている。国内には仙台・東京・名古屋・大阪・広島の5つの営業拠点を展開し、2023年には本社のある宮城県富谷市に情報産業用刃物の量産体制を整えた新工場を稼働させた。また、海外展開も進めており、中国・杭州などに現地法人を設立している。

製品ラインアップとしては、スリッターナイフやコーティングダイ、鉄鋼・紙・食品向



東洋刃物の高橋氏、アミタ製作所の網田氏

けの専用刃物、研磨機、ナイフホルダーなど多岐にわたるが、主力製品は情報産業用刃物だと高橋氏が説明する。特に、「ゲーベルナイフ、ディスクカッター、スコアカッターといった刃物は、光学フィルム、リチウムイオン電池材料、コンデンサ材料などのスリット加工に使用されている。また、長尺のコーティングダイの製作も可能で、2800mm程度の製作実績もある」（高橋氏）。

ナイフホルダーの開発については、「移動式ナイフホルダーで課題となっていた、シャフト締め付け時のねじれによる横振れ精度に対しては、シャフト装着部の仕様を見

直すことで、従来 100 μ m 程度あった振れが 30 μ m 以下に抑えられるようになった。さらに、上刃にかかる圧力の均一化を図るために独自開発の皿バネを採用し、従来のコイルバネで見られたたわみ量のばらつきを軽減した」という。

その他、工具不要で着脱が可能なため、作業効率や安全性の面でも高く評価された「クイックホルダー」も紹介された。

アミタ製作所の網田氏は、「皿バネやホルダーはスリットナイフの重要な箇所。刃物というと刃先に目が行きがちだが、バネ性やクリアランスなどについての困りごとや、新しいことに取り組みたいということがあれば情報交換をしていきたい」と話していた。

現場改善のスペシャリストとしての歩み、そしてこれからについて



若狭氏

続いて、(株)ハイメックス技術営業チームの若狭聖二氏が登壇。同社事業の三本柱として展開する巻出・巻取製品のカプセルチャック、原反搬送機器、ロール製品の研究開発について講演した。

カプセルチャック関連では、様々な用途に対応するチャック製品を紹介。「エアカプセル」は、ウレタン製のカプセルを膨らませて巻き芯をチャックするエアシャフトで、芯振れや発塵を抑える構造により、クリーンルームでの使用も可能とされている。

また、「ハイロック」はエアチャックとして軸利用タイプとシャフトレスタイプの2種類を展開。軸利用タイプは既存の軸に装着することで簡単にエアシャフト化ができ、異なるサイズのロールへの対応も可能。シャフトレスタイプはテーパコーンが不要で、側面から押さえ付けることなくチャックできるため、装置の構造を簡素化できる。チャック部はウレタン素材でグリップ力があり、高い伝達トルクを実現する。

安全性を高めた「セルフロック」は主軸が 90 度回転すると自動でカバーが閉まり、巻取軸の落下を防ぐサポートユニットで、作業中の事故リスク軽減に寄与する。その他、エア式の「オプスロック」A シリーズや側圧式の S シリーズなど、用途に応じた製品を紹介。

マテハン機器では、作業負担軽減と安全性向上などに貢献する各種装置について説明を行った。中でも「ロールピッカー」は同社で最も実績のある原反搬送機で、縦置き of 原反を反転し装置へ受け渡す機構を備えており、反転動作にも対応可能。原反重量 150 ～ 750kg に対応し、手動と電動の 2 タイプがある。

その他、原反専用の搬送台車「ロールリフカー」や、既存のホイストを活用して重量物を安全に反転できる「ロールキャッチャー」、軽量のロール状製品を握力に頼らず持ち上げられる「ハンドキャッチャー」なども紹介した。

最後に、若狭氏はこれら製品について「現場改善のスペシャリストとして当社が生み出してきた装置だが、原反の受け渡し時における位置や高さ、作業スペースの確保といった現場課題もある」とし、今後は全方位走行が可能なロボットを活用した小型搬送機器の研究開発にも取り組んでいくと語った。

軟包装（ソフトパッケージ）業界の今とこれから

最後に、全グラの田口会長と袖山特定技能制度担当顧問が登壇した。人手不足が深刻化する中、生活に欠かせないソフトパッケージを製造するグラビア加工業界では、即戦力となる外国人材を受け入れる特定技能制度の活用に向けた取り組みについて説明を行った。



田口氏

田口会長は、極端な安値で受注する企業が業界全体の適正価格を崩し、結果的に事業継続が困難となる構造を生んでいると指摘し、後進が働き続けられる環境を整えることが先人の責任だと訴えた。「自分たちを守るためにも団体（組合）の力が必要だ。業界として特定技能を活用できるように認めてもらえれば、日本で働きたいと思っている人たちを受け入れ、良い仕事をしてもらえるようになるだろう」と語った。

袖山特定技能制度担当顧問は、特定技能制度活用に向けた体制作りには多くの労力が費やされているとし、「ソフトパッケージ業界は政府の産業分類に軟包装やコンバーターといった明記がなく、業界規模や人材不足を示す統計データが存在しないため、実態を示す資料づくりには膨大な時間と労力がかかっている」と話す。

一方で、印刷業界では印刷・製本が特定技能 1 号の対象業務として追加認定され、全グラ、全日本印刷工業組合連合会、全日本製本工業組合連合会のいずれかに所属する企業は所定の手続きを経ることで外国人労働者を受け入れることが可能となった。しかし、「軟包装



袖山氏

の現場で必須とされるラミネート、スリット、製袋工程は対象外のため、『印刷だけでは包材は完成しない』という実情が制度に反映されていない」と述べ、全グラが実施した経済産業省や出入国在留管理庁らへのこれらの工程の必要性和現場の実態の理解促進を目的としたレクチャーなどの取り組みを紹介。

袖山特定技能制度担当顧問は、5年後、10年後を見据えた対策に取り組んでいるとし、制度活用のさらなる拡大を視野に入れており、今後は要件を満たすことで在留期間の上限がなくなる「特定技能2号」の認可取得も目指していると語った。



会場の様子

セミナー終了後には懇親会が開催され、歓談の輪が広がる中、参加者の全グラの吉原宗彦副理事長（東京加工紙㈱）と東京スリッター㈱の平井新悟社長（全国スリッター協会幹事）の間に意外な“つながり”があったことが判明したとのことでした。その内容について吉原副理事長より次のような手記を寄稿いただきましたので紹介します。

懇親会ウラ話

6月のとある日のこと、全国グラビア協同組合連合会の田口会長から朝、私の携帯に電話がありました。朝一でしたので、何かあったのかと思いながら電話を取りましたところ、田口会長から「大変面白いことが分かったんだよ。東京池袋にある東京スリッター㈱の平井新悟社長の平井家と吉原家は繋がっているんだよ」とお話されました。

東京加工紙㈱は一昨年創業 100 周年を迎え、記念式典を催しました。その時、社員に創業者の吉原臣郷（私の曾祖父）について話そうと調べたところ、臣郷は平井家から吉原家へ養子となったということは知っていましたが、その他詳細は分かりませんでした。そして田口会長より、「7月4日に全国スリッター協会の懇親会が開催され、その時、東京スリッターの平井社長も参加するので、吉原さんも参加してお会いしたら」とお誘いいただきました。

全国スリッター協会の会員の皆様、東京スリッターの平井社長も失礼ながら存じ上げない中、懇親会当日、平井新悟社長と初対面致しました。平井社長より「今年の5月、父（平井昌夫様）が亡くなり、家の整理をしていたところ、巻物が出てきて、それは平井家の家系図でした。家系図を辿っていたところ、天祖父の平井臣親には6人子があり、長男の小太郎（平井社長の高祖父）がいて、そして次男の臣郷の欄に追記で『吉原家相続 東京加工紙設立』と記してありました。東京加工紙はグラビア印刷会社ではないかと思い、すぐに全国グラビアの田口会長に電話をして確認しました」とのことでありました。

その巻物を拝見し、しっかり弊社創業者臣郷の名前も確認させていただきました。創業者の吉原臣郷は明治 11 年生まれであり、平井家と吉原家の 150 年近くに渡る不思議なご縁を感じさせていただきました。

ちなみに、東京スリッターの平井社長と田口会長のご関係は、「コンバーテック」本年1月号の全国スリッター協会立ち上げの記事を田口会長が読み、即、協会の関東圏幹事である平井社長に協会立ち上げの激励のお電話をされたのがきっかけとのことでした。この田口会長のお電話がなければ、こんなにすんなりと平井社長とお会いできたのかなと思いますと、田口会長の行動力に心より感謝申し上げる次第です。

最後に本誌をお借りし、今回ご丁寧にご説明、そして吉原家のルーツを紐解いていただきました平井新悟社長に深く御礼を申し上げます。（記：吉原宗彦）



プラスチック資源循環

「家庭用化粧品容器に係る設計認定の基準」など公表

プラスチック使用製品設計指針に基づく設計認定の基準として、「清涼飲料用ペットボトル容器」（農林水産省・経済産業省告示）、「文具」（経済産業省告示）、「家庭用化粧品容器」「家庭用洗剤容器」（同）の4分野について、2025年7月24日付で告示が公表された。これらの告示は、公布の日から起算して6月を経過した日からとなる。頁の都合上、今回は「家庭用化粧品容器に係る設計認定の基準」を取り上げる。

家庭用化粧品容器に係る設計認定の基準

プラスチック使用製品設計指針3(2)に規定する設計認定の基準（以下「設計認定基準」という）のうち、シャンプー、ヘアーリンス、ボディーソープまたは手洗い用石けん（以下「化粧品」と総称する）を充填するためのプラスチック製の容器〔キャップ、ディスペンサー、スパウト（容器の注ぎ口をいう。以下同じ）、包装および附属品を含む。以下「家庭用化粧品容器」という〕に係るものは、次に掲げる通りとする。

1 家庭用化粧品容器のうち、化粧品を詰め替えることにより繰り返し使用することができる容器（以下「本体容器」という）に係る設計認定基準は、設計認定を受けようとする家庭用化粧品容器が、次に掲げる要件のいずれかを満たすこととする。

一 次のイおよびロを満たすこと。

- イ 当該容器1個あたりに使用されるプラスチックの重量を当該容器1個あたりの内容量で除して得た値が0.400g/mL以下であること。
- ロ 当該容器1個あたりの重量のうち、日本産業規格Q14021の7・8・1・1のa)の1)に適合する再生プラスチック（以下「プレコンシューマ材料」という）の重量に0.5を乗じて得た重量および日本産業規格Q14021の7・8・1・1のa)の2)に適合する再生プラスチック（以下「ポストコンシューマ材料」という）の重量の合計の割合が50%以上であること。

二 次のイからチまでを満たすこと。

- イ 前号イを満たすこと。
- ロ 当該容器（キャップ、ディスペンサー、スパウト、包装および附属品を除く）には、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）第3A1～7までおよびD2に適合するPET、PEまたはPPのいずれかを使用し、それ以外の原料を使用していないこと。
- ハ 当該容器（キャップ、ディスペンサー、スパウト、包装および附属品を除く）の原料は、それぞれ分離できること。

- ニ 日本産業規格 K6900 に適合する充填材を使用していないこと。
- ホ PE または PP を使用する場合は、当該容器 1 個当たりのそれらのプラスチックの比重は $0.97/\text{cm}^3$ 未満とすること。
- ヘ 当該容器（キャップ、ディスペンサー、スパウト、包装および附属品を除く）の原料として PET を使用する場合は着色をせず、PE または PP を使用する場合は着色をしないまたは白色に着色すること。
- ト 当該容器（キャップ、ディスペンサー、スパウト、包装および附属品を除く）には、印刷（レーザーによる印字を除く）を施さないこと。
- チ キャップ、ディスペンサー、包装および附属品は分離することができること。

三 第一号口および前号口からホまでを満たすこと。

四 次のイおよびロを満たすこと。

- イ 当該容器 1 個当たりに使用されるプラスチックの重量を当該容器 1 個当たりの内容量で除して得た値が 0.125g/mL 以下であること。
- ロ 当該容器 1 個当たりの重量のうち、プレコンシューマ材料、ポストコンシューマ材料およびバイオマスプラスチック〔動植物に由来する有機物である資源（化石資源を除く）を原料とするプラスチックをいう。以下同じ〕の重量の合計の割合が 10%以上であること。

五 第二号口からホまでおよび前号イを満たすこと。

六 第二号口からチまでおよび第四号口を満たすこと。

2 家庭用化粧品容器のうち、本体容器における化粧品の詰替えを目的とするボトル形の容器（以下「ボトル形容器」という）に係る設計認定基準は、設計認定を受けようとする家庭用化粧品容器が、次に掲げる要件のいずれかを満たすこととする。

一 次のイおよびロを満たすこと。

- イ 当該容器 1 個当たりに使用されるプラスチックの重量を当該容器 1 個当たりの内容量で除して得た値が 0.080g/mL 以下であること。
- ロ 当該容器 1 個当たりの重量のうち、プレコンシューマ材料の重量に 0.5 を乗じて得た重量およびポストコンシューマ材料の重量の合計の割合が 60%以上であること。

二 次のイおよびロを満たすこと。

- イ 前号イを満たすこと。
- ロ 前項第二号口からチまでを満たすこと。

三 前項第二号口からホまでおよび第一号口を満たすこと。

四 次のイおよびロを満たすこと。

- イ 当該容器 1 個当たりに使用されるプラスチックの重量を当該容器 1 個当たりの内容量で除して得た値が 0.055g/mL 以下であること。

- 当該容器1個当たりの重量のうち、プレコンシューマ材料、ポストコンシューマ材料およびバイオマスプラスチックの重量の合計の割合が15%以上であること。

五 前項第二号ロからホまでおよび前号イを満たすこと。

六 前項第二号ロからチまでおよび第四号ロを満たすこと。

3 家庭用化粧品容器のうち、本体容器における化粧品の詰替えを目的とするプラスチックフィルム製の容器（以下「フィルム形容器」という）であって、異なる種類のプラスチックフィルムを積層した容器に係る設計認定基準は、設計認定を受けようとする家庭用化粧品容器が、次に掲げる要件のいずれかを満たすこととする。

一 次のイおよびロを満たすこと。

- イ 当該容器1個当たりに使用されるプラスチックの重量を当該容器1個当たりの内容量で除して得た値が0.050g/mL以下であること。
- 当該容器1個当たりの重量のうち、プレコンシューマ材料の重量に0.5を乗じて得た重量およびポストコンシューマ材料の重量の合計の割合が15%以上であること。

二 次のイからニまでを満たすこと。

- イ 前号イを満たすこと。
- アルミニウム箔を使用していないこと。
- ハ 当該容器（キャップ、ディスペンサー、スパウト、包装および附属品を除く）には、食品、添加物等の規格基準第3A1～7までおよびD2に適合する原料を使用すること。
- ニ フィルムの各層は単一の種類のプラスチックを使用し、再資源化が可能であること。

三 第一号ロ並びに前号ロおよびハを満たすこと。

四 次のイおよびロを満たすこと。

- イ 当該容器1個当たりに使用されるプラスチックの重量を当該容器1個当たりの内容量で除して得た値が0.023g/mL以下であること。
- 当該容器1個当たりの重量のうち、プレコンシューマ材料、ポストコンシューマ材料およびバイオマスプラスチックの重量の合計の割合が50%以上であること。

五 第二号ロおよびハ並びに前号イを満たすこと。

六 第二号ロからニまでおよび第四号ロを満たすこと。

附則

この告示は、公布の日から起算して6月を経過した日から施行する。